

樽前小学校

教育目標

自分から進んで学習する子
いつも明るく思いやりのある子
心もからだもたくましい子
ねばり強くがんばる子

体験学習・年間行事など



学芸会・樽前地区総合文化祭(10月)



畑の先生による菜園学習(7月)



椎茸の駒打ち体験(4月)



冬のかんじき体験(2月)



海浜学習(7月)



樽前連合運動会(6月)

樽前山が見守るまちで

樽前山のふもと、苦小牧市の西端に位置する樽前地区は、市の面積のうち約14%を占める地域です。広大な森林地帯や湖沼、美しい景観を見せる樽前ガローなど、豊かな自然に恵まれたこの地域には、畜産や畑作などの農業に従事する人を中心に、約100世帯が生活しています。

そんな樽前地区のシンボルとして、地域の交流の中心となっているのが、大きな柏の木々に囲まれた平屋の校舎、樽前小学校です。

市内唯一の「特認校」

樽前小学校は、大正11年に覚生尋常小学校樽前特別教授場として創立した歴史ある学校です。昭和20年には約160人の児童が通っていましたが、地区人口とともに児童数も減少。平成7年には、校区内の児童のほか、市内校区外の児童が通うことができ、小規模特認校制度により特認校となりました。



▲三・四年生の授業の様子。教室の前後にある黒板で、それぞれの授業が進みます

樽前だから、 少人数だから、 できる教育

現在は、一・二年生、三・四年生、五・六年生がそれぞれ一緒の教室で学ぶ複式学級となっています。全校児童数は34人、うち25人が、希望して校区外から通学している「特認児童」です。

樽前小に通うには？

樽前小学校の特認制度は、たくさん緑に囲まれた樽前の自然環境を生かして、小規模の学校で心身の健康を増進させ、個性豊かな児童を育成することを目的としています。特認児童として樽前小学校に通学するためには、その目的に保護者が賛同し、子どもにその中で教育を受けさせたいという強い希望が必要です。

各学年の人数には限りがあり、毎年11月に新一年生や定員に満たない学年について募集を行っています。樽前小学校への申請や校長との面接の後、希望者が多い場合は抽選で特認児童を決定します。

「樽前って、どんなところだろう」

赴任が決まり、ワクワクした思いで来たところ、地域の方の温かさや緑の豊かさに驚いたことを覚えています。

そんな恵まれた環境を背景として、自然を教材にした菜園活動や椎茸栽培・販売などの体験学習や、少人数ならではの、個人の力を伸ばす教育が本校の特徴です。

少人数の学校では、同級生だけでなく、他学年との関係や地域との交流が大きな意味を持ちます。上級生が下級生を助け、指導する関係性が責任感を養い、地域の大人との交流が、将来に生かせる社会性を育みます。

日ごろから献身的に本校教育に協力いただいている地域の方々のために、また、本校を選んでいただいている校区外から通学する児童と保護者の皆さんのためにも、本校のテーマでもある「夢・感動・ふれあい」を、児童一人ひとりに感じてもらえる学校であるように、教職員一丸となって運営してまいります。

樽前小学校 きくち かずたか 菊地 和孝 校長

第24代校長として、昨年度に豊浦小から赴任。休み時間や放課後にも、積極的に児童たちと交流している。自作の課題プリント集が児童に人気。

